



【本校における「確かな学力」】

学習指導要領の基礎的・基本的内容

習得

活用

基礎・基本の確かな定着

探究

自ら学び、自ら考える力

- 知的活動(論理や思考)の基盤
- コミュニケーションの基盤
- 感性・情緒の基盤

学んだ知識や技術を活用し、課題解決を図るために必要な思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学習する態度を養う。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・算数科における個に応じた指導を推進し、習得と活用を図る。 <li style="padding-left: 20px;">1・2年(少人数による学習) <li style="padding-left: 20px;">3～6年(習熟度別編成) ・話す、聞く、伝え合う等コミュニケーション力を高める。 ・全教室にプロジェクターと実物投影機を設置し、ICT活用による分かりやすい授業を実施する。 ・夏季休業日に学力補充教室を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の見直しにより授業時数の確保に努める。 ・基礎・基本の定着や読書活動の推進を目指し週3回朝学習・朝読書の時間を設定する。 ・年間12回の体育朝会を行うとともに、マラソン月間や長縄月間を設定することで、児童の運動に対する意欲を高め、体力の向上を図る。 ・オリンピック・パラリンピック教育を進め、体力の向上、国際理解教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題「かかわりを大切にし心豊かに生きる児童の育成」のもと、道徳の授業改善を図る。 ・専門性の高い外部講師からの指導・助言を生かして、指導技術を高める。 ・授業研究を通し、授業力の向上を図る。 ・若手教員に対して、OJTにより授業力向上等の課題解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の評価規準を見直し、評価規準に基づく評価を行い、指導と評価の一体化を図る。 ・学校行事や学校公開後に行うアンケート調査の結果に基づき改善策を立てて、授業改善に活かす。 ・保護者・学校評議員による評価を活用し、教育課程の編成に活かすとともに、学校だより等でその結果を返していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、ホームページや保護者会等を活用し学校経営方針を周知する。 ・校内の水田や地域の畑を活用し、地域の農家の方の指導を受けながら農作物栽培体験を行う。 ・「学校・地域連携事業」を活用して、授業の補助を依頼するとともに、「地域未来塾」を実施する。
小中一貫教育の視点				
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫実践校として中学校との連携を一層図る(家庭学習の連続性、生徒会交流、部活動体験等)とともに、課題改善カリキュラムの活用を進める。 				
<p>授業改善策の検証方法 国・都の学力調査結果、東京ベーシック・ドリル診断テスト結果、日常の授業観察、児童・保護者アンケート等により検証・改善・実践・報告に努める。</p>				